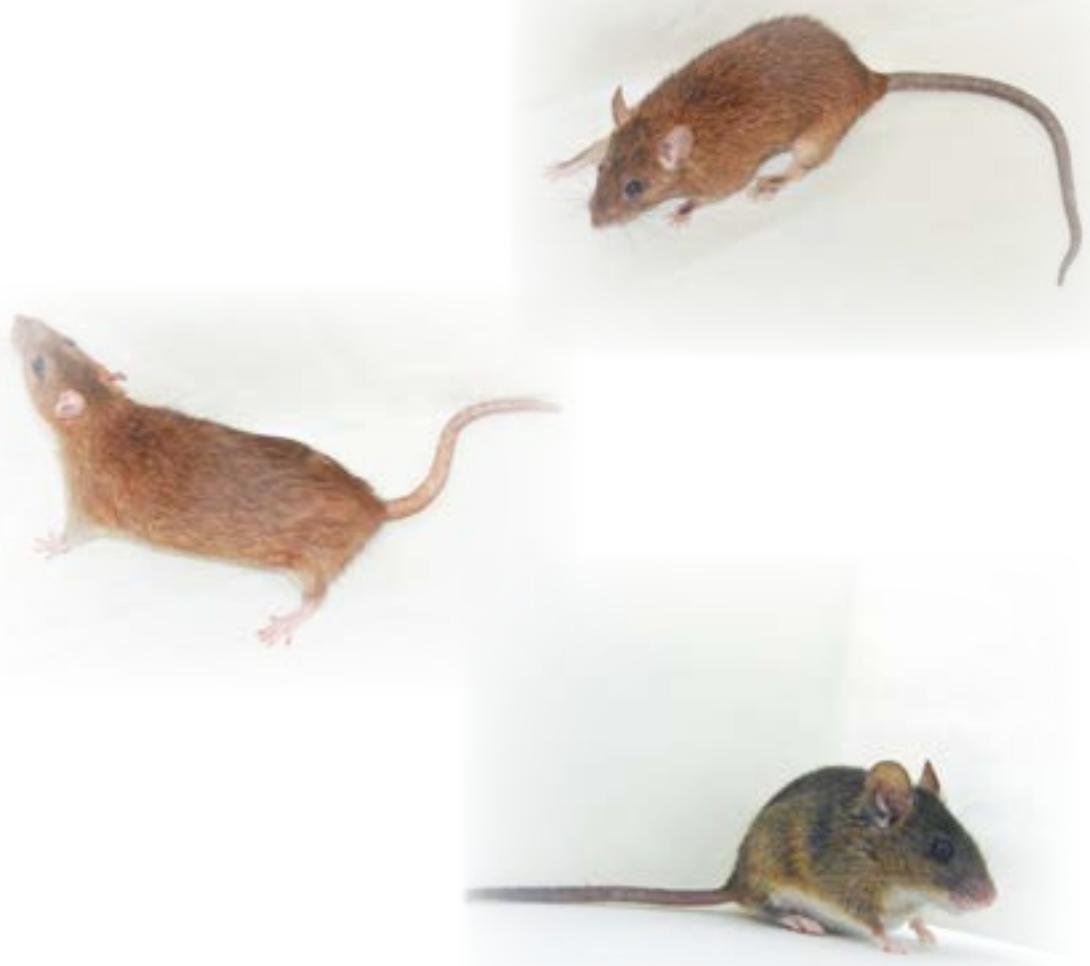


避難指示区域における ネズミ対応マニュアル

～住民版～



はじめに

目 次

はじめに	1
I ネズミに関する基礎知識	2
家屋の中に侵入・生息するネズミ	2
ネズミがいると	3
II 避難指示区域のネズミとその被害の実態	4
なぜネズミは増えたのか？	4
モデル駆除の結果	5
III ネズミ対策の実践	6
駆除の前に	6
ラットサインを見つけましょう	6
そのラットサインは新しいですか？	7
まずは整理整頓	7
侵入経路の遮断	8
駆除はいつやるの？	9
自分で駆除をする	9
毒エサ（殺そ剤）を使う	9
粘着トラップを使う	11
効果的な駆除方法	11
ネズミの廃棄法	12
駆除終了の目安	13
専門業者に依頼する	13

このマニュアルは、ネズミによる被害が発生している避難指示区域内に家屋をもつ方々に、お送りしております。皆様の多くが、避難元の家屋に住み着いたネズミに頭を悩まされていることだと思います。

このマニュアルは、それらのネズミがどのような性質をもち、どのような対策を行えば被害を抑えることができるのか、ということについて解説したものです。

避難元の自治体によっては、自治体が一括して専門業者に駆除を依頼する、毒エサや粘着トラップ等を配布する、などの対策が講じられている、又は対策の実施を検討しているところもあるかと思います。

いずれの場合においても、皆様の御理解と御協力があって初めて、ネズミ対策は実を結びます。

その際に役立てていただければと考え、このマニュアルを作成いたしました。

このマニュアルは、大きく3部構成となっています。

「I ネズミに関する基礎知識」では、家屋内に侵入・生息するネズミの種類やネズミが媒介となる感染症等について記載しています。

「II 避難指示区域のネズミとの被害の実態」では、ネズミがこれまでに増えた要因や、県の実施した調査によって判明した被害の実態について記載しています。

「III ネズミ対策の実践」では、駆除を実施する前にまず実施していただきたい対策、毒エサや粘着トラップの使い方、専門業者に依頼する際の注意点について記載しています。

このマニュアルが、皆様が、ネズミのいない清潔な家屋に帰還できるための一助となれば幸いです。

I ネズミに関する基礎知識

□ 家屋の中に侵入・生息するネズミ

家屋内に侵入又は生息するネズミは家ネズミと呼ばれます、その種類には ①ドブネズミ、②クマネズミ、③ハツカネズミ の3種類があります（写真1）。避難指示区域では全ての種類が見られ、ネズミの種類の区別なく駆除する必要がありますが、それらの生態には少しずつ違いがあります（表1）。駆除を実施する上では、どのような種類のネズミが家屋にいるのかを把握することが必要となります。

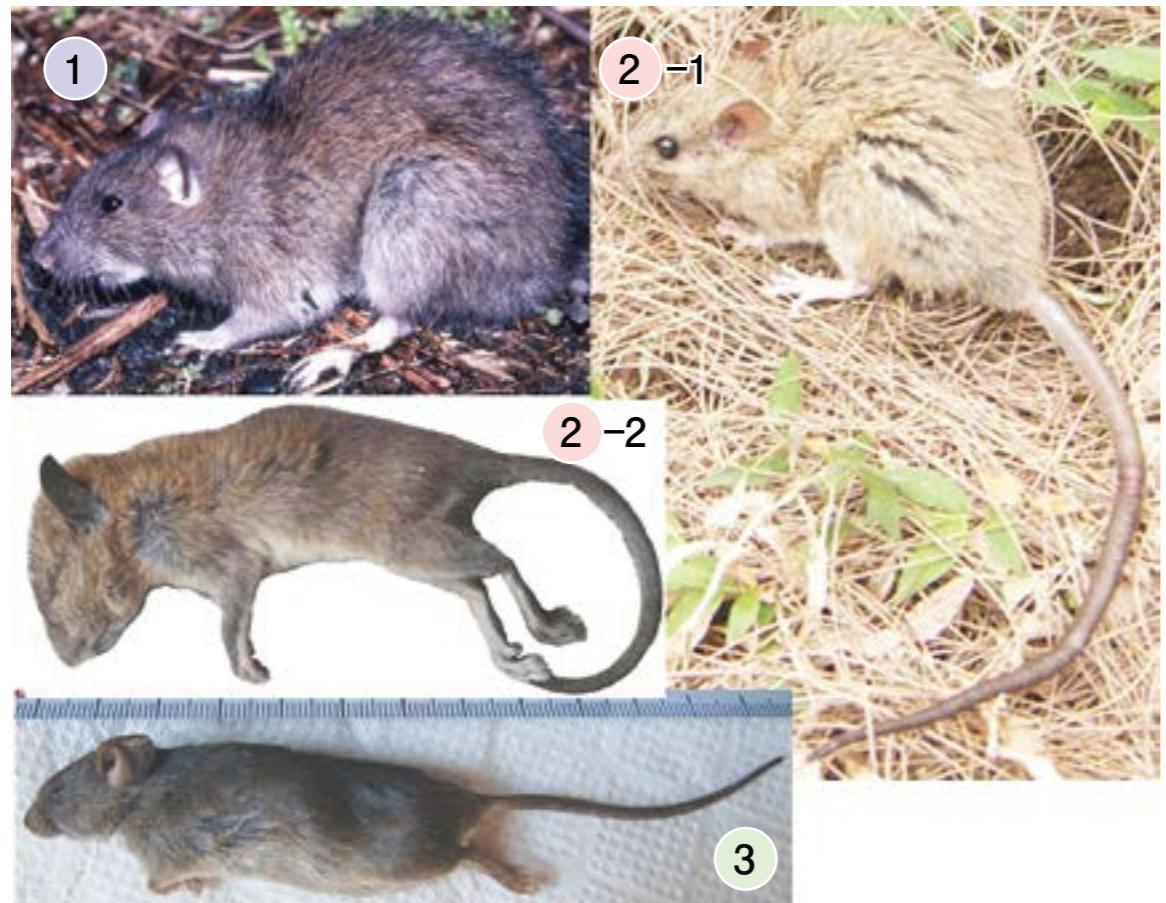


写真1 家ネズミ3種

- ①：ドブネズミ
- ②-1：クマネズミ
- ②-2：クマネズミの幼獣
- ③：ハツカネズミ

表1 家ネズミ3種の比較

種類	形態	生態・習性
ドブ	成獣 150～500g。目・耳は小さい。胸部・四肢は灰～白。	驚くとよく鳴く。攻撃的。昼間屋外で目撃することもある。動物質を好むが、雑食性。水辺を好む。
クマ	成獣 100～200g。目・耳は大きく、尾は頭胴長より長い。胸部は黄褐色。四肢の甲に暗斑。	警戒心が最も強い。木登り、綱渡り、垂直方向の運動が最も得意。寒さには最も弱い。種子、穀類、果実を好む。
ハツカ	成獣 9～23 g。ドブ・クマの幼獣に似るが、体と比較して頭や足が小さい。	尿や体が臭い。渴きに最も強い。寿命は短い。

□ ネズミがいると…

ネズミは次ページの表2に示すように、様々な感染症の媒介に関与しています。

また、体の表面に吸血性のダニや昆虫が付着していることもあります、それらがばらまかれて、帰宅した人が被害を受けることがあります（写真2）。

さらに、餌でないものもかじるので、電気ケーブルがかじられて、漏電や火災の事故につながることもあります（写真3）。

この他、ネズミが死んで悪臭を放ったり、死がいからウジ虫がわいたりすることもあり、衛生的に良くありません。



写真2 人からも吸血する
イエダニ



写真3 ネズミにかじられた
電気ケーブル

表2 ネズミが媒介する代表的感染症

感染経路	病名	病原体	備考
咬まれた場合	鼠咬症	らせん菌の一種	元来、ネズミの病気
排泄物	レプトスピラ症	スピロヘータの一種	ネズミの尿から病原体が排出
	サルモネラ症	サルモネラ菌群	食中毒の原因菌
外部寄生虫	ペスト	ペスト菌	ネズミに寄生するノミが媒介者
	腎症候性出血熱	ハンタウイルス	ドブネズミや実験動物のラットが関与

※ 平成25年に避難指示区域で県が実施した調査では、レプトスピラ、サルモネラ菌、ハンタウイルスの検査を行いましたが、いずれも検出されませんでした。

II 避難指示区域のネズミとその被害の実態

□ なぜネズミは増えたのか？

以下のような要因が揃ってしまったために、ネズミが大量発生することとなったと考えられます。

- ・広い地域において、ほとんど人の気配がない状態となった（活動の自由）
- ・ネズミのエサとなる食品が放置されてしまった（エサの供給）
- ・家屋には屋外からのネズミの侵入口が多い（侵入経路の存在）
- ・震災後、室内の整理整頓を思うようにできていない（巣の提供）

□ モデル駆除の結果

平成25年に県が実施したモデル駆除では楢葉町、浪江町で多数のネズミを捕まえました。また、モデル駆除の対象とした90%以上の家屋でネズミ生息の痕跡が見られ、ほぼ半分の家屋でネズミが捕獲されました。このネズミ生息の割合は、日本で前例のない状況と言えます。

捕まったネズミの種類構成を見ると、クマネズミが多い傾向にあります。クマネズミは家ネズミの中では駆除が難しいとされる種類です。

また、冬の寒さが厳しい内陸の地域では、クマネズミが少なくなるなど、地域によって種類構成が異なる可能性もあります。

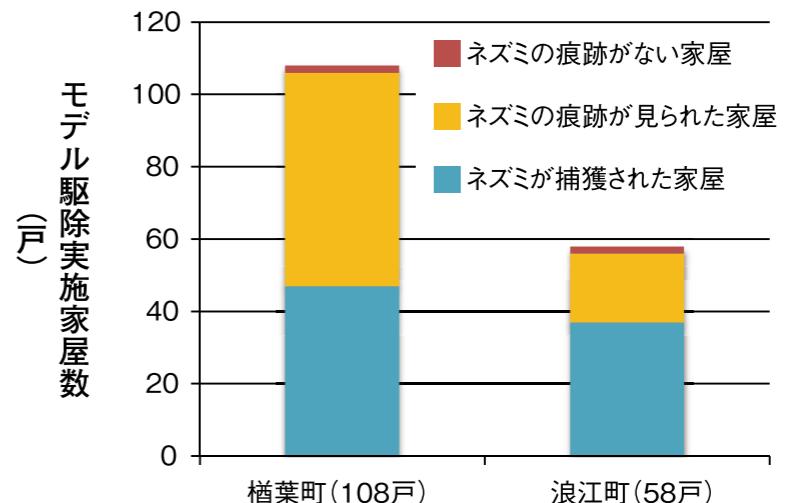
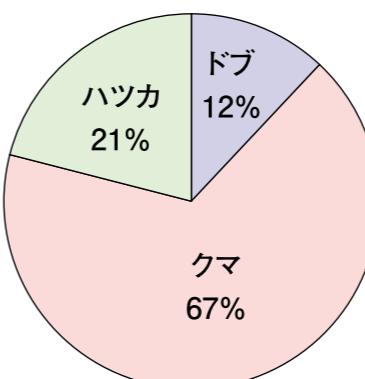


図1 楢葉町と浪江町でのネズミ生息状況

楢葉町(164匹)



浪江町(187匹)

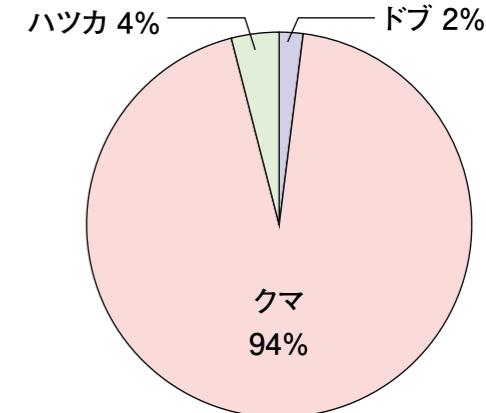


図2 捕獲されたネズミの種類構成

III ネズミ対策の実践

□ 駆除の前に

● ラットサインを見つけましょう

ネズミ対策の第1歩は生息状況を把握することから始まります。家ネズミは人がいるとなかなか姿を現さないので、ネズミの「いる・いない」は、下の写真のようなネズミの痕跡（ラットサインと呼ばれます）の有無で判断します（写真4）。

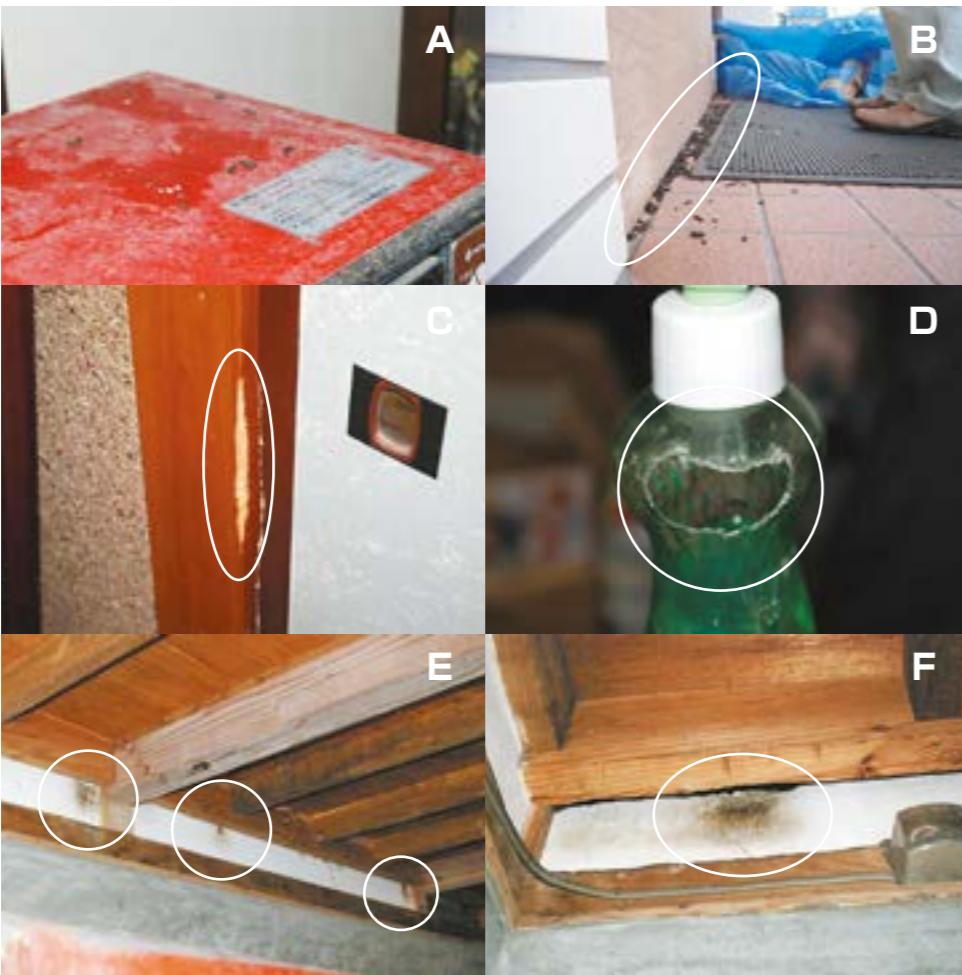


写真4 ラットサインの具体例

A～B：フン、C～D：かじり跡、E～F：こすり跡

● そのラットサインは新しいですか？

ラットサインはネズミがそこにいたことを示す証拠ですが、今もネズミが生息しているかどうかは分かりません。そこで次のステップでは、ラットサインが新しいか古いかを見極めます。ラットサインが新しければ、今もネズミが生息しているということになります。簡単に知る方法は、一度古いラットサインを取り除き、ある程度経った後で、再びそのラットサインが現れるかどうかを確認する、というものです（写真5）。

このやり方で駆除効果の判定もできます。



写真5 新しいラットサインの確認法
上：一度フンを除去する
下：新しいフンが現れたら今もいる証拠

● まずは整理整頓

ネズミ対策の基本は、エサを断つこと、通路を遮断すること、巣を作らせないこと、の3点にあります。まずは、家屋の中でネズミのエサになるようなお菓子、米、乾麺、飲み物、調味料、お供え物、ペットフードなどを、未開封のものも含めて全て撤去します。もちろん、こうした食料品だけを片づけるのではなく、部屋全体を整理整頓することが望ましいので、帰宅の都度、少しづつでも片づけましょう（写真6）。

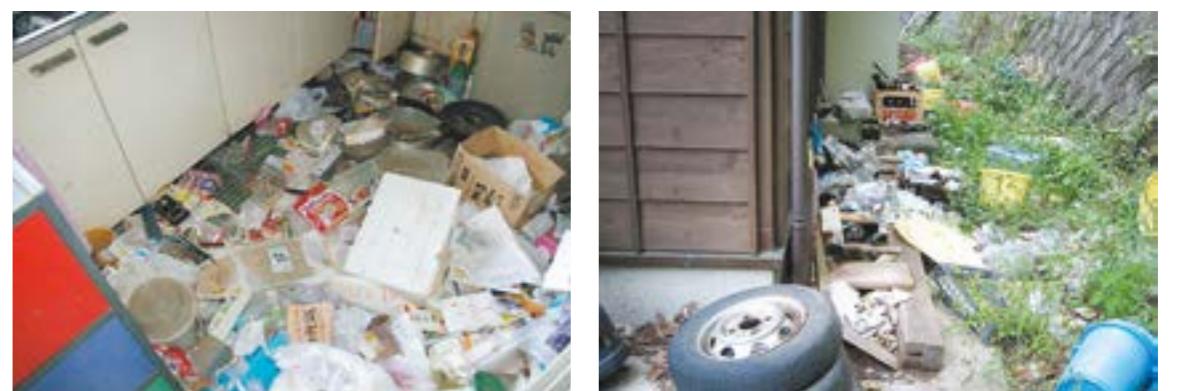


写真6 このような場所がネズミの巣となっているかも

● 侵入経路の遮断

ネズミは、屋外から屋内へと侵入してきます。主な侵入経路は図3のとおりです。

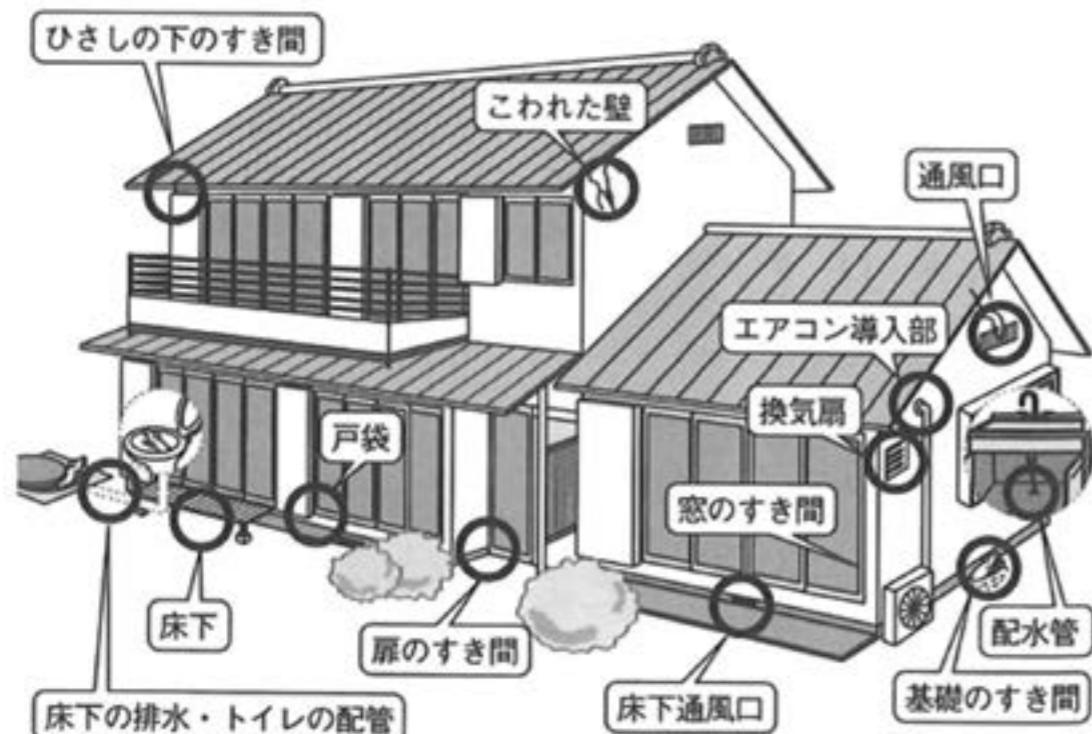


図3 屋外からのネズミ侵入経路

駆除した後にまたネズミが侵入してこないよう、侵入経路はできるだけ閉鎖しておきましょう。この際、専門業者は防そスponジなどの道具を使いますが、金属たわしなどでも代用はできます（写真7）。



写真7 ネズミ侵入経路の遮断
防そスponジ（左）、金属たわし（右）

● 駆除はいつやるの？

冬期（11月～3月）は特にクマネズミやハツカネズミが屋内に侵入・定着し、低温とエサ不足により繁殖が抑えられるので、この時期を中心に秋から春にかけて駆除を行うのが理想的です。しかし、生息が確認されている場合は、夏期であっても対策を継続する必要があります。

□ 自分で駆除をする

● 毒エサ（殺そ剤）を使う

家の中のネズミを駆除する方法の一つが、毒エサ（殺そ剤）の使用です。

毒エサは、ホームセンターやインターネット等で購入できます。

毒エサを使う時のポイントは、いかに食べさせるかです。このため、ゴマ油、ソース、牛乳などで「におい付け」をし、「エサ」と思わせることが必要です。

なお、ネズミと同じほ乳類である人や犬・猫などにも毒性がありますので、使用上の注意を守って正しく使いましょう。

◆ 事前の確認

① 家屋の中に犬、猫などのペットはいませんか？

→ 誤って食べる恐れがあるので、毒エサは使用できません。

② ネズミのエサとなるような食品が放置されていませんか？

→ 他のエサがあると、ネズミが毒エサを食べにくくなります。同じくネズミが毒エサを食べにくくなるので、忌避剤（ネズミの嫌いなにおいを出して、ネズミを寄せ付けないようにするもの）の使用も避けましょう。

③ 整理・整頓・清掃は十分ですか？

→ ネズミ駆除の基本は、ネズミが好まない環境を作ることです。

◆ 毒エサを置く場所

以下のような場所が毒エサの配置に適しています。

- ① 台所：食品や油のにおいがあるので、ネズミが出没しやすい場所です。
- ② 新しいネズミの痕跡がある部屋：新しいフンが転がっているのはネズミが活動している証拠です。
- ③ 倉庫：お米、その他の食品・農機具などを保管している倉庫にも潜みます。

◆ 毒エサの配置とその後

- ① ネズミが食べているのかどうかを確認するために、毒エサは専用の皿などに入れて配置しましょう。
- ② 毒エサを入れた皿をネズミのフン、足跡、かじり跡など、ラットサインの多い箇所に置きます。置いた場所は忘れないようにしてください（写真8）。



写真8 毒エサの配置法

- ③ 配置後は、帰宅の都度、食べ具合やネズミの死がいの有無を確認してください。なくなっていた場合は、新しい毒エサを補充してください。食べた形跡がなかったら、他の場所に置いてみましょう。

● 粘着トラップを使う

もう一つのネズミを駆除する方法は、粘着トラップ（トラップとは「わな」のことです）の使用です。

粘着トラップは、うっかりしてその上を走ってしまったネズミを捕えるものなので、ネズミの通路となっている場所、フンやかじり跡などが見られる場所を中心に配置しましょう。ネズミは壁際を通ることが多いので、壁に沿って置くと効果的です。置き方には、隙間なく規則的に並べる方法と、不規則に並べる方法があります。不規則に並べたほうが少ない枚数で広い範囲をカバーできます（写真9）。ただし、暗い室内などで、誤って人が踏まないように注意しましょう



写真9 粘着トラップの配置法

- A : 規則配置
B : 不規則配置
C : 立体配置

● 効果的な駆除方法

毒エサと粘着トラップを両方配置すると、毒エサを食べて弱ったネズミが粘着トラップにかかりやすくなります。

ただし、この場合、毒エサと粘着トラップの間隔は、1m以上空けましょう。

● ネズミの廃棄法

捕獲したネズミを処分する場合は、各自治体の廃棄区分に従いましょう。

廃棄する際にはできる限り手袋などをして、イエダニがついたり、ネズミにかまれたりしないように注意し、取り扱った後は手指を洗いましょう（写真 10）。



写真 10 トランクで捕獲したネズミの廃棄例

- ① トランクをたたむ。
(ネズミが生きている場合は、かまれないように注意しましょう)
- ② ビニール袋に入る。
- ③ イエダニ対策として、殺虫エアゾール剤を噴霧する。
- ④ 袋を閉じる。

● 駆除終了の目安

①ネズミが捕獲されない、②置いた毒エサが食べられていない、③新しいラットサインが現れない、といった状態が1か月程度続ければ、駆除終了の目安としてよいでしょう。しかし、季節が変わると、再び増殖して他の場所から侵入してくることもあるので、数年間はお住まいの市町村でのネズミの出没状況に注意を払うことが必要です。ネズミに関する情報があった際は、よく確認しましょう。

□ 専門業者に依頼する

自分で駆除ができない場合は、信頼できる専門業者に依頼しましょう。これまでにどの程度ネズミ駆除を実施しているか、その実績などを確認しましょう。金額や実施計画の確認も大切ですので、見積書や契約書等の書類で契約内容を明らかにしておきましょう。

また、専門業者に依頼する場合も、家屋内の整理整頓・清掃やエサとなるものの除去は必要になります。



避難指示区域におけるネズミ対応マニュアル
～住民版～

発 行：平成26年3月
発行者：福島県保健福祉部食品生活衛生課
〒960-8670 福島県福島市杉妻町2番16号
電 話：024-521-7243
